

■白河天皇 72代天皇。特異な独裁者の天皇で、藤原摂関家衰退の間隙について院政を開始、時代は頼廃へ向かう。

しらかわてんのう

鳳凰堂・・・1053＝ 生，後三条天皇第1皇子貞仁。母は藤原公成女(同能信養女)茂子。

前九年の役終1062＝ 9歳：母が死去。

治暦荘園整理1065＝12歳：元服。

後三条天皇・1068＝15歳：

延久荘園整理1069＝16歳：東宮になるとともに、藤原能長の養女道子を妃に迎えるが、あまりに年上でうまくゆかず、

・・・・・・1071＝18歳：源頼房の娘で藤原師実の養女となった賢子を妃とするや、たちまち寵愛、

白河天皇即位1072＝19歳：*踐祚し即位。賢子を中宮とし、

後三条天皇死1073＝20歳：父上皇没。

藤原頼通没・1074＝21歳：敦仁親王が誕生。摂関家の重鎮であった前関白藤原頼通・上東門院彰子が死去。

・・・・・・1075＝22歳：関白教通が死去，関白は頼通の子師実が継いだ。

以後，次々と皇子・皇女が誕生するが，

・・・・・・1080＝27歳：神託に感じて，宇佐宮に宝塔を建立。

後三年の役始1083＝30歳：

・・・・・・1084＝31歳：中宮が突然病に臥して重篤となるも，内裏の不文律を無視して退下を許さなかったため，死去，

法勝寺の大塔1085＝32歳：翌年になってなお，寝所に籠りきりになるほどの衝撃を受け，追善のため円徳院等次々建立する一方，新たな后等を置かず，女房らに片端から手をつけるようになる。

院政始・・・1086＝33歳：*賢子所生の7つの善仁親王を東宮とし即日譲位。以後幼帝堀河天皇の後見として政治に関与する。師実は堀河即位とともに摂政となるが，実権は上皇にあり，ここに院政の基が開かれた。

・・・・・・1089＝36歳：

後に鳥羽天皇即位に際して，斎宮・齋院の候補者を欠き落胤認知もままならないほど荒淫であったが，

・・・・・・1093＝40歳：この頃，寵臣藤原頼季の縁者源惟清の妻“祇園の女御”への寵愛し始め，

白河上皇出家1096＝43歳：溺愛してきた賢子の遺子郁芳門院が夭折すると悲嘆のあまり，出家して法皇となる。

武家院昇殿始1098＝45歳：法皇呪詛の名目で源惟清一家を配流してまで，“祇園の女御”を独占すると，漸く軽減する。

・・・・・・1103＝50歳：この頃には，侍妾に過ぎない“祇園の女御”が后・中宮に匹敵する権勢となるも，

遂に，子には恵まれなかったため，

中尊寺始・・・1105＝51歳：その養女に(待賢門院)藤原璋子を迎えるや，またも溺愛し始め，

白河院政確立1107＝54歳：*突然堀河が没して鳥羽が即位すると，専制を確立。

・・・・・・1108＝55歳：この頃，藤原忠実の娘泰子の入内を求めるも，その母が賢子の異母妹師子で，自らが愛撫した後，忠実の妻に払い下げていたことから，固辞される。

性的関係を持つに至りながら，

・・・・・・1114＝61歳：璋子を忠実の子忠通に嫁がせようとするが，何かと障りを述べて辞退したため，

・・・・・・1116＝63歳：鳥羽天皇のため，最勝寺建立を発願し，

・・・・・・1117＝64歳：藤原光子造進の塔ができる。璋子を孫で14の鳥羽天皇に入内させる。先例を破って，皇居向かいに御幸。

・・・・・・1118＝65歳：璋子を懷妊させ，

・・・・・・1119＝66歳：鳥羽天皇の皇子(のち崇徳天皇)として誕生させるとともに，璋子一族を大出世させる異常な人事を発令。

関白免職事件1120＝67歳：熊野詣中，忠実が泰子を鳥羽天皇に入内させようとしたことを知り，激怒して関白を罷免，忠通を関白とする。璋子と密通していた藤原季通も逆鱗に触れ失脚。その後も，機会をつくっては璋子と関係し，

・・・・・・1122＝69歳：鳥羽天皇皇女禧子が誕生。

・・・・・・1123＝70歳：鳥羽譲位，崇徳即位と変わるが，

さすがに，璋子との肉体関係は終わるものの，

・・・・・・1125＝72歳：鳥羽上皇が璋子の姪を召すと，璋子に替わって逆鱗し，その娘を直ちに宮外に追放。

・・・・・・1127＝74歳：璋子のために発願した円勝寺の金堂・塔が落成。

晩年は狂乱に近い殺生禁制を行うなど，人民に重い負担をかけながら，

鳥羽院政始・1129＝76歳：*最期まで“治天の君”として君臨して，没した。